

第 46 回 技術士全国大会(徳島) 報告

長 井 智 典

1. はじめに

第 46 回技術士全国大会は、2019 年 10 月 5 日(土)～8 日(火)の 4 日間の日程で四国本部が担当し、徳島県徳島市で開催されました。全国からの参加者数は約 600 名、北海道本部からは 47 名が参加しました。ちなみに日本技術士会の組織別では、開催地である四国本部が最も多く、次いで統括本部、中国本部、関東甲信県支部と続き、北海道本部は 5 番目に多い参加者数でした。

2. 大会の概要

(1) 大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは、『『新たな世代(とき)へ、技術士の挑戦』～四国・阿波からのメッセージ～』でした。2019 年 5 月 1 日に元号が「平成」から「令和」に改元されたことを踏まえ、このメッセージとなったようです。

大会宣言では、上記テーマのもと、新時代への希望と期待を胸に、科学技術の発展と豊かな社会づくりを目指し、誠実に貢献するよう、四国本部の花岡史恵技術士(建設部門)、武間亮香技術士(生物工学部門)により宣言されました。

1. 先人の智恵や地域・文化から育まれた技術を次世代へとつなぎ、新たな技術の開発と積極的な活用により、地方創生・地域活性化に取り組みます。

2. 激増する自然災害に向けて、産学官民の連携のもと、過去の教訓を活かし、新たな技術を駆使することで、防災・減災に取り組みます。

3. 男女共同参画社会基本法の施行 20 年を迎え、プロフェッショナルエンジニアとしての個々の能力と責任のもと、男女を問わず、次世代を担う科学技術者の育成と支援を行います。



写真-1 大会宣言の様子

(2) 会場

大会会場は、メイン会場をあわぎんホール(徳島県郷土文化会館)とし、ウェルカムパーティーが阿波観光ホテル、交流パーティーが



写真-2 あわぎんホール

JR ホテルクレメント徳島で開催されました。残念ながらメイン会場のあわぎんホールは外壁改修中で外観はわかりませんでした。

(3) スケジュール

【10 月 5 日(土)】関連行事(全国防災連絡会議、男女共同参画推進連絡会議、技術者倫理情報交換会、各部会会議・見学会等)／パネル展示／ウェルカムパーティー

【10 月 6 日(日)】第 1～第 4 分科会／大会式典／記念講演／交流パーティー／パネル展示／パートナーズツアー

【10 月 7 日(月)】テクニカルツアー(日帰り)A、B

【10 月 7 日(月)～8 日(火)】テクニカルツアー(1泊 2 日)C

3. 全国大会

(1) 大会式典

大会式典は、あわぎんホール 4 階大会議室にて開催されました。式典の流れは次のとおりであり、今回、式典の所要時間短縮を図られたようで、従来式典前に行われていたオープニングイベントはありませんでした。

歓迎挨拶(四国本部長)→式辞(会長)→来賓祝辞・挨拶(6 名)→来賓紹介(19 名)→大会宣言→閉会挨拶(大会実行副委員長)。

来賓挨拶では、与党技術士議員連盟の事務局長であり、ご自身も技術士(航空・宇宙・総監)で正会員でもある、新妻議員から挨拶がありました。



写真-3 新妻議員の挨拶

(2) 記念講演

記念講演は、スポーツジャーナリストの二宮清純氏が「スポーツを通じた地域活性化」と題して講演されました。二宮氏は 1960 年愛媛県生まれで、スポーツ紙や流通紙の記者を経て、フリーのスポーツジャーナリストとして独立され、オリンピック、サッカー W 杯、メジャーリーグ、ボクシング世界戦など国内外で幅広い取材活動を行われており、現在は株式会社スポーツコミュニケーションズ代表取締役を務められています。

講演では、丁度日本で開催されていたラグビー W 杯からお話を始められ、続いて 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックについて、1964 年の開催時との比較(コンセプト:成長→成熟、65 歳以上の年齢構成:6%→30%、言葉:効率→快適)から、成功のカギとなるのはパラリンピックではないかと話されました。2012 年のロンドンオリンピックにおいて、スーパーの商品棚が低かったり、商品への導線が広がったり、関係者の名刺に点字が入っていたりして、ロンドン開催が高く評価されたそうです。名刺の字が小さすぎて見えない、というユー

モアを交えつつ、東京オリンピックは「お・も・て・な・し」で選定されたのだから、出来ることから始めましょうと会場に投げかけられました。

また、以前に盲目のスイマーと呼ばれる河合純一氏と対談された時のエピソードから、障害者は健常者の将来の姿だと気づかされ、パラリンピックの環境整備は高齢化社会に対する備えになるとのことでした。

続いて、プロ野球広島東洋カープの本拠地であるマツダスタジアムの成功事例(女子トイレの改修→カープ女子の誕生、球場へのアプローチスロープの設置→会話による気分の高揚、新幹線から見える→好奇心を刺激する)について触れ、スポーツは地方に活力をもたらす大事なものと話されました。

そして、川淵三郎氏(1991 年 J リーグ初代チェアマン、2002 年日本サッカー協会キャプテン(会長)就任、名誉会長を経て 2012 年日本サッカー協会最高顧問、2015 年日本バスケットボール協会会長を歴任。)との出会いを通じ学んだ、「21 世紀のリーダーの条件」について、エピソードを踏まえ話されました。ちなみに、日本サッカー協会会長時に「キャプテン」と命名したのは二宮氏であり、船長をイメージされたそうです。

エピソードでは、1993 年の J リーグ設立にあたり議論を行っていた際、「前例がない」、「時期尚早」という意見が出た場面で川淵氏が、「時期尚早と言う人間は 100 年たっても時期尚早と言う。前例がないと言う人間は 200 年たっても前例がないと言う。そもそも時期尚早と言う人間はやる気がないだけ。やる気がないとは情けなくて言えないから、時期尚早という言葉でごまかそうとする。前例がないと言う人間はアイデアがないだけ。アイデアがないとは恥ずかしくて言えないから、前例がないと言って逃げようとする。仕事が出来ない奴は、出来ない理由ばかり考えてくる。最初に出来ないのは当たり前。出来ないことに挑戦して出来るようにするのが仕事だ。わかったら、二度と俺の前で出来ない理由を口にするな。」と発言されたことを紹介し、この言葉が無ければプロ化はなかったと思うとお話されました。そして、リーダーの一丁目一番地はブレないこと、ボトムアップは理想だが最後はトップのリー

ダーシップ、理屈や理論で人は動かないと続き、21世紀のリーダー、閉塞感を破るリーダーの条件として次の4つの言葉を挙げて結ばれました。

Passion (情熱)、Mission (大義)、Action (行動力)、Vision (先見力)

なお、講演時の写真撮影は厳禁のため、講演開始前に映された紹介スライドのみの掲載となりますのでご容赦願います。

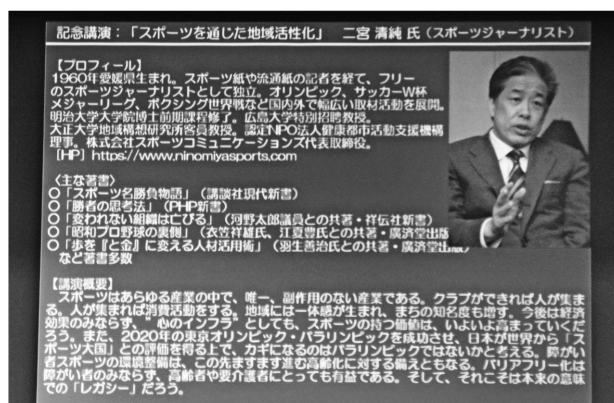


写真-4 大会宣言の様子

(3) 交流パーティー

交流パーティーは会場を JR ホテルクレメント徳島 4 階クレメントホールに移し、立食形式で約 360 名の参加者を迎え開催されました。先ず、歓迎セレモニーとして認定特定非営利活動法人鳴門「第九」を歌う会の有志の皆様からの第九合唱がありました。皆様ご存知のベートーヴェン「第九」交響曲は、第一次世界大戦中の大正 7 年(1918 年)6 月 1 日に、徳島県鳴門市板東にあった「板東俘虜(ふりょ)収容所」に収容されていたドイツ兵によって、アジアで初めて全楽章演奏が行われました。初演の背景には、収容所所長である松江豊寿(会津人)をはじめとする職員の人道的な処遇や、ドイツ兵俘虜と地元民との国境を越えた心温まる交流があったそうです。セレモニー後半では、会場の皆さんで第九を合



写真-5 講演前のスライド

唱しました。

開宴後、各地の技術士が交流を深める中、阿波おどり有名連の「娯茶平(ごちゃへい)」による踊りが披露され、その後会場全体での阿波おどりへと広がりました。(踊りのグループを連(れん)と言い、阿波おどり振興協会、徳島県阿波踊り協会等に参加する阿波踊り連 33 連を「有名連」と呼びます。)



写真-6 会場全体での阿波おどり

宴も終わりに近づき、次回開催地の中部本部の PR が行われ、その後笠原副会長の一丁締めで閉会となりました。

(4) 分科会

式典前の午前に 4 つの分科会が開催されました。以下に各分科会の内容を示します。

■第 1 分科会【新技術】「新たな技術と地域活性化～新しい取り組みで地方・地域を元気に～」

- 基調講演:「テラヘルツ波を用いた非破壊検査」安井武史(徳島大学ポスト LED フォトニクス研究所所長・教授)
- 事例発表:「自己免疫疾患に対する免疫調節剤“初乳 MAF”および水溶性藍粉末の研究開発」宇都義浩(徳島大学社会産業理工学研究部教授)、「LED 光に対するクモの行動と ERG 信号の評価」釜野勝(阿南高専創造技術工学科化学コース准教授)
- 発表:「ポンプゲート式小規模排水機場による浸水対策」吉田智紀((株)石垣)、「四国高知で生まれた鋼管支持杭式仮橋構台工法『SqC ピア工法』」筒井秀樹((株)高知コンサルタンツ)

■第 2 分科会【防災】「地域防災における技術士の役割～激増する自然災害に立ち向かうために～」

- 基調講演:「災害の世紀における防災・減災・縮災戦略」中野晋(徳島大学環境防災研究センター長)
- 発表:「復興まちづくりは『人々がつないでいくもの』」齋藤明(東北本部防災支援委員会)、「技術士よ、今こそ立ち上がれ! 21 部門で支援する防災・減災への挑戦!」持田拓児((株)和晃地質コンサルタント)、「地域防災における技術士の役割と葛藤」小島和彦(都市・地域住環境研究室)、「住民の見守り力を引き出す防災の進め方」野村貢((株)建設技術研究所)、「北海道本部防災支援連絡会議活動報告」城戸寛(新太平洋建設(株))、「【中国本部】平成 30 年 7 月豪雨災害の被災地復興まちづくり支援」山下祐一((株)テクニコ)、「【中部本部】新たな世代(とき)へ、技術士の挑戦～静岡県の防災」山之上誠((株)特種東海フォレスト)、「技術士は地区防災のリーダーとなれ」森直樹((株)地研)

■第 3 分科会【男女共同参画】「地域活性化に寄与する男女共同参画のあり方～自分らしく働き続けるために～」

●発表：「現地調査を大切に」福田和恵（(株)四電技術コンサルタント）、「防災支援活動の詳細」山本美佐子（(株)地研）、「多様性を目指す職場を目指して」飯山直樹（(株)エコ建設コンサルタント）

●GW 方式による意見交換

●「全体報告」末次綾（(株)四電技術コンサルタント）

■第 4 分科会【青年】「楽しく充実した働き方へ、青年技術士の挑戦～ハラスメントや働き方改革の対応と実践～」

●基調講演：「ハラスメントへの対応」坂田知範（田中法律事務所弁護士）

●GW 方式による意見交換

4. オプショナル行事

(1) ウェルカムパーティー

式典前日の 10 月 5 日（土）には、阿波観光ホテル 5F クリスタルパレスにてウェルカムパーティーが開催され、統括本部並びに各地方から約 350 名の出席者がありました。パーティーは、西条藍峰氏（吟詠道啓峰流阿波吟詠会）の詩吟「阿波出藍の誉れ」、詩舞「胡隠君を尋ぬ」から始まり、寺井会長挨拶、海野徳島県副知事挨拶と続き、寺沢阿南高専校長の乾杯で開宴しました。途中、アトラクションとして阿波おどり有名連の「うずき連」の皆さんと技術士勇士の方々による連舞入場、壇上演舞がありました。最後は増田大会実行副委員長のご発声で約 2 時間のパーティーが開きとなりました。



写真-7 西条藍峰氏



写真-8 城戸技術士の連舞



写真-9 うずき連の演舞

(2) テクニカルツアー

大会式典・記念講演の翌日から、テクニカルツアーが催行されました。今回は日帰りの A コース（祖谷のかずら橋、大歩危観光遊覧船、ラピス大歩危）に 35 名、B コース（藍の館、阿波十郎兵衛屋敷、ひょうたん島クルーズ、眉山ロープウェイ、阿波おど里会館）に 18 名、1 泊 2 日の C コース（福寿醤油・松浦酒造、阿波十郎兵衛屋敷、うだつの町並み、河野メリクロンあんみつ館、祖谷のかずら橋、大歩危観光遊覧船、大窪寺）に 15 名が参加し、皆さん徳島の文化に触れ貴重な体験をされました。私は A コースに参加し、日本三大奇橋の一つである祖谷のかずら橋を渡ったのですが、事前にかずらだけでなくワイヤーで吊ってあることとお聞きし、安心して渡ることができました。写真は、大歩危の遊覧船です。出発地は意外に流れが速く不安を感じたのですが出発地以外は優雅な流れでした。



写真-10 大歩危観光遊覧船

5. おわりに

今回の技術士全国大会は 2020 年 10 月 2 日（金）～ 5 日（月）に愛知県名古屋市で開催されます。中部本部では既に準備を始められており、今回同様、魅力的な大会になることとされますので、ご都合のつく方は是非ご参加ください。

長 井 智 典（ながい とものり）

技術士（建設／総合技術監理部門）

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

